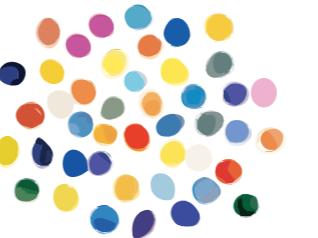
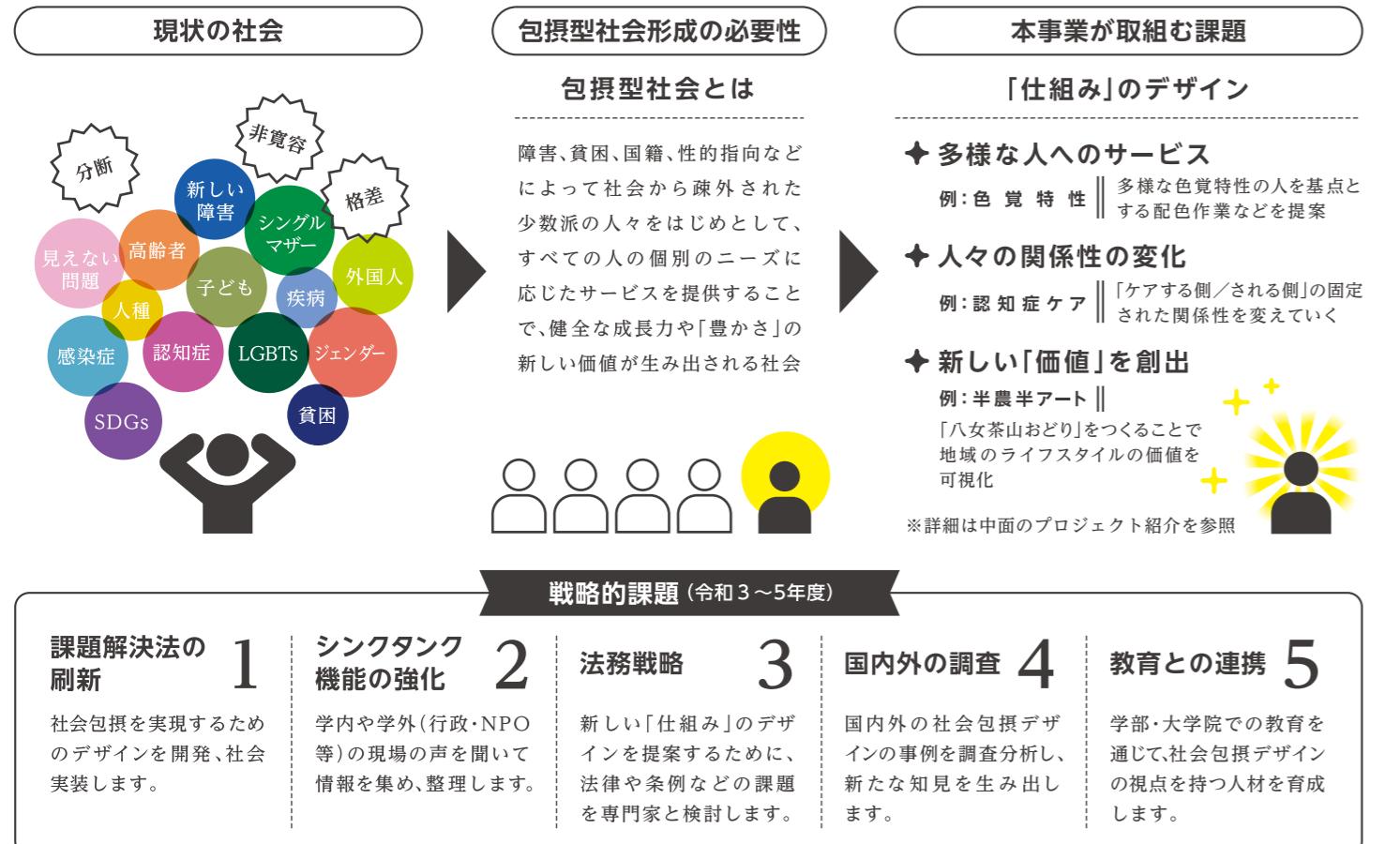


社会包摂デザイン・イニシアティブについて

社会包摂デザイン・イニシアティブは、様々な分野において多様性と包摂性を両立させる仕組みを社会に実装し、新たな価値観や関係性をもたらす「社会包摂デザイン」のあり方を提案する研究教育機関です。近年、新型コロナウイルスの感染拡大など、社会情勢が不安定になる中で、格差や貧困の拡大、差別的行為・発言など、不寛容や分断の問題が明るみに出ています。それに對し、障害、性、国籍、貧困などの理由で疎外されてきた人たちを含め、あらゆる人たちの存在が尊重される包摂型の社会を実現することが期待されます。このことを踏まえ、私たちは、多様なニーズに応じたデザインを提供、検証することで、個人の潜在的な能力を引き出し、健全な成長や豊かさの新しい価値を生み出す社会づくりを先導していきます。



Design Initiative for
Diversity & Inclusion
社会包摂デザイン・イニシアティブ

デザインシンクタンク

センター長 尾方 義人 インダストリアルデザイン、デザイン学
副センター長 中村 美亜 芸術社会学
羽野 晓 (キャンパスライフ・健康支援センター)/公共空間デザイン、ランドスケープデザイン、空間と社会包摂
田北 雅裕 (人間環境学研究院)/まちづくり、コミュニケーション・デザイン、教育デザイン論
田中 瑛 社会学、メディア・ジャーナリズム研究

ソーシャルアートラボ

朝廣 和夫 緑地保全学
(シビックデザインラボ長兼任)
尾本 章 応用音響工学
知足 美加子 影刻
長津 結一郎 アートマネジメント
(ソーシャルアートラボ長)
中村 美亜 芸術社会学

シビックデザインラボ

伊原 久裕 グラフィックデザイン
尾方 義人 インダストリアルデザイン、デザイン学
工藤 真生 サイン計画、視覚記号
須長 正治 色彩・視覚科学
谷 正和 環境人類学
村上 泰樹 聴覚情報処理
村木 里志 福祉人間工学、身体運動科学

アドバイザー(協力研究員)

大澤 實雄 ニッセイ基礎研究所芸術文化
プロジェクト室主任研究員
耘野 康臣 NPO法人九州コミュニティ
研究所代表
宮田 智史 NPO法人ドネルモ事務局長

運営室

白水 祐樹 テクニカルスタッフ
小黒 伽菜 事務補佐員



Design Initiative for
Diversity & Inclusion
社会包摂デザイン・イニシアティブ

〒815-8540 福岡市南区塩原4-9-1 九州大学大橋キャンパス
社会包摂デザイン・イニシアティブ運営室
Tel & Fax: 092-553-4552 E-mail: didi-office@design.kyushu-u.ac.jp
URL: https://www.didi.design.kyushu-u.ac.jp



九州大学 | 大学院芸術工学研究院 | Faculty of Design
Kyushu University

社会包摂デザイン・イニシアティブの組織構成

アートに力点を置く ソーシャルアートラボ と、
デザインに力点を置く シビックデザインラボ 、
実践知の体系化を行う デザインシンクタンク の
3つのラボから構成され、複数のプロジェクト

聴覚障害のある人にとっての コンサートのあり方についての実践研究

尾本章(応用音響工学) 長津結一郎(アートマネジメント)他

聴覚障害者の求める音楽コンサートがいかなるものかを明らかにするために、聴覚障害者にとっての「音楽」像に対する理解を質的に整理し、聴者にとっての「音楽」像との接点を探索し、実際に試験的なコンサートを実施します。



認知症ケアの場で 芸術活動が変化を生み出す仕組み

中村美亜(芸術社会学) 尾方義人(インダストリアルデザイン)他

認知症ケアの場において、即興的で共創的な芸術活動がどんな変化を生み出すかについて、医療・福祉・地域活動の専門家と一緒に、実践と理論の両面から検討し、効果的な活動のデザインを提案します。



舞台芸術と音響技術による 社会包摂のデザイン

長津結一郎(アートマネジメント) 尾本章(応用音響工学)他



劇場法で提唱される社会包摂の取り組みが未だ拓がりを見せないなかで、劇場を包摂的な環境にするための社会的・技術的观点から見たグランドデザインを構築するために、舞台技術者が社会包摂を実践する上での困難を整理し、ハンドブックを作成します。



デザインシンクタンク

◆ DE&I(Diversity,Equity&Inclusion)宣言 に基づく仕組みのデザイン

九州大学で2022年3月にDE&I宣言が発表されたことを受けて、多様性、公平、協働を実現する具体的な仕組みを提案します。

◆ デザインプロセスの展示

様々な社会的アクターがデザインの担い手となりつつあることを踏まえ、優れたデザインを展示するだけではなく、どのようにして優れたデザインが作られたのかが見える展覧会を企画します。

◆ 社会包摂デザイン研究会

(2022年度に4回開催予定)

「社会包摂デザイン」を多角的に考えるために、様々な専門分野を持つ教員や学外の有識者を交えて、「公共」、「配慮」などのテーマについてお話を伺います。

自然の循環と協働体の 再生のためのアート実践の仕組み —物語からのアプローチ

知足美加子(彫刻)他

自然災害による被災者の心のレジリエンスの回復のためのアート実践の一環として、アートによる精神的で能動的な現実経験を「物語」として捉え、意識の繋がりを再生すると仮定した上で、アートを通じた協働を通じた「物語」の創造、共有、伝達のプロセスを検証します。



多様な色覚特性を持つ人に伝えるためのデザイン



須長正治(色彩・視覚科学)
伊原久裕(グラフィックデザイン)
羽野暁(公共空間デザイン)他

色覚異常と呼ばれる色覚特性を持つ人たちに対して、「正常な色覚」を前提に色覚を補正するのではなく、多様な色覚特性を持っている人たちを基点とする配色作業やアート活動などの、デザイン手法や仕組みデザインを提案します。

ジェンダー/LGBTsのデザイン

尾方義人(インダストリアルデザイン) 中村美亜(芸術社会学)他

福岡市男女共同参画推進センター・アミカスと連携して、ジェンダーの新しい啓発の手法の開発や組織間連携の仕組みを検討し、自治体間で異なる「パートナーシップ制度」についても、専門家とともに、仕組みのデザインという観点から再考します。



多様性に応えるピクトグラムのデザイン

伊原久裕(グラフィックデザイン) 工藤真生(サイン計画、視覚記号)他

標準的な人やメディアへの最適化を目標として「標準化」され、一部の人にとって理解しづらくなっているピクトグラムに対し、多様性を包摂するために、人やメディアによって異なるピクトグラムを選択できるスケール(調整)型デザインを提案します。



「半農半アート」を 基盤とした地域づくりの仕組み

朝廣和夫(緑地保全学) 長津結一郎(アートマネジメント)他

少子高齢化・過疎化に伴い課題が山積する中山間地域などの農村社会で、「半農半アート」のライフスタイルを基盤とした包摂型地域づくりや農業ボランティアの新しい仕組みモデルを形成・提案し、学生が農村での課題と包摂的社会に関する具体的ニーズを知る機会を提供します。



音響工学の手法を用いた 軽度聴覚障害者サポートの仕組みづくり

村上泰樹(聴覚情報処理)他

聴覚系を支配する規則の発見・聴覚障害の可視化を行います。この取り組みを通じ、軽度聴覚障害への理解を促し、パーソナリティに原因があると判断されて社会的な排除の対象になりやすい軽度難聴者が包摂される社会の仕組みづくりに貢献します。

